

# 日本小児アレルギー学会〔第28回〕

アトピー性皮膚炎に於ける ミニシンポⅡ (A=6)

## シャンプー・石鹼・洗剤類の安全性について

〔発表者〕 ・十字 文子 ・岩田 力 ・中川 克己  
(東大小児科) (同分院小児科) (同皮膚科)

〔目的〕 ・近來、増加、難治化しているアトピー性皮膚炎に関しては、原因が複雑で諸論争が行なわれている。

我々は、皮膚に直接接触するシャンプー・石鹼・洗剤類が、増悪、難治化の原因として働いていることを示したが、これらを改善することにより、皮膚症状の改善が得られることを示し、より安全なものを患者に用いる必要があると思われる。

〔対象者〕 ・皮膚症状のない成人21名…18才～48才 (平均年齢28歳)

〔方法〕 ●パッチテスト

・洗濯洗剤……市販2種類とA洗剤(植物性油脂由来で酵素、蛍光剤を含まない、界面活性剤の低含量(13.5%)の洗剤)

・石 鹼……①ベビー石鹼・②シャンプー (E u)  
③植物性由来の石鹼成分に漢方薬を添加した (A s)

\*各々を蒸留水にて5%・1%・0.1%に希釈、Finn-chamber disc-kitを用いた方法にて、上腕内側に塗布。48時間・72時間後に判定。

〔結果〕 ●洗濯洗剤のパッチテスト陽性率・刺激指数はA洗剤が最も低値を示した。  
●石鹼のパッチテスト陽性率・刺激指数では、差はなかった。  
●A洗剤・②のE uシャンプーは、低刺激性で、毒性も低く、水質汚染度を示す、BOD・CODが低かった(公害性が低い)。

〔総評〕 ◎シャンプー・石鹼・洗剤類は、直接皮膚を破壊させ、皮膚症状を引き起こす。また、化学成分はハプランとして免疫反応に関与する。

今回示したように、毒性、刺激性、公害性の3点より、より安全と思われるものは、食物連鎖として、大気汚染物質として、人体に還元し、更にアレルギー症状を引き起こす連鎖を減少させる。

◎即ち、シャンプー、石鹼洗剤類を改良することにより、アトピー性皮膚炎の改善のみでなく、食品添加物、大気汚染量を減少させ文明病としてのアレルギー・アトピー性疾患の予防または減少が可能と思われる。

ミニシンポⅡ

A-6

アトピー性皮膚炎に於けるシャンプー・石鹼・洗剤類  
の安全性について

十字文子(1), 岩田 力(2), 中川克己(3),  
東大小児科(1), 同 分院小児科(2), 同 皮膚科(3)

【目的】 近来、増加、難治化しているアトピー性皮膚炎に関しては原因が複雑であり、諸論争が行われて居る。我々は皮膚に直接接触するシャンプー・石鹼・洗剤類が増悪、難治化の原因として働いて居る事を示したが、これらを改善することにより、皮膚症状の改善が得られることを示し、より安全なものを患者に用いる必要があると思われる。

【方法】 皮膚症状のない成人21名、18才～48才(平均28才)を対象としてパッチテストを施行した。シャンプーはベビーシャンプー4種、薬草シャンプー2種を比較した。石鹼は4種、洗濯洗剤3種を対象とした。石鹼・洗剤は5%、1%、0.1%に希釈し、上腕内側にFinn-chamberを用いた方法にて塗布、48時間、72時間後に判定した。

【結果】 シャンプーでは刺激指数の低い薬草シャンプーに変える事により皮膚症状の改善を見た(既報)。石鹼・洗剤類では0.1%の濃度による刺激指数は48時間、72時間後では有意差はなかったが、合成洗剤、特に界面活性剤の少ない製品を選ぶことが重要であると思われる。

上記に発表の通り、医学的には有意差は認められなかったが、テストの内容として洗剤は市販の2種と植物性由来で、酵素、蛍光剤を含まない界面活性剤の低含量(13.5%)のスピカココ洗剤の3種を用いた結果、スピカココ洗剤が優位を示した。即ち、優位差こそ少ないが、毒性が低く、水質の汚染度を示すBOD、CODから見て公害性が低く、低刺激性でもあるものが「スピカココ洗剤」である。